

連携診療所向け季刊情報誌

TO



架け橋

2024.01

社会医療法人東和会 理念

私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。
そして患者さまの人権を尊重し、「地域のみなさまに信頼され、愛される病院」を目指します。

CONTENTS

- ①新年のご挨拶 / 理事長 大西 恭子
- ②糖尿病・内分泌疾患について / 中本 明紀子
- ③「社会医療法人」に認定されました

お問合せ 地域連携室

- 第一 東和会病院 TEL : 072-671-1118(直通)
- 第二 東和会病院 TEL : 072-674-1008(代表)
- 東和会いばらき病院 TEL : 072-623-0234(代表)



新年のご挨拶

社会医療法人 東和会
理事長 大西 恭子



2024年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。まず初めに元日に発生した能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が国内で確認され4年が経過しました。感染症法上の分類は5類

へ引き下げられ社会経済活動も再開され、一見落ち着いていた様相を呈していますが、医療・介護施設での対応は大きくは変わりません。

また昨年末より季節性インフルエンザが過去にない勢いで流行しており、薬や医療材料の不足、急性期病床の不足などが繰

り返されています。地域医療の最前線で診療にあたっておられる先生方と協力し、東和会グループも地域の診療体制維持の為に受け入れを引き続き行っています。

さて、2024年1月1日、医療法人東和会は「社会医療法人」に認定されました。

社会医療法人は、国・都道府県・市町村と並ぶ公益性の高い、地域住民に不可欠な医療法人に認定されるものです。東和会は地域で必要な救急医療の提供を

担う社会医療法人として都道府県知事より認定されました。

これまでいただきました皆さま方のご支援に深く感謝申し上げますとともに、よりいっそう良質かつ高度な医療を継続的に提供すべく尽力してまいります。今後も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

2024年が皆さまにとって良き1年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

きます。

2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズムについて

ご存知の先生方も多いかと存じますが、2022年9月、日本糖尿病学会よりコンセンサスステートメントとして「2型糖尿

糖尿病・内分泌疾患について

社会医療法人東和会 第一東和会病院
糖尿病内分泌内科 中本 明紀子



平素より地域の先生方には大変お世話になっており、ありがとうございます。10月より第一東和会病院糖尿病内分泌内科の常勤として入職いたしました中本明紀子と申します。

本稿では、主に糖尿病の薬物療法についてご紹介させていただきます

病の薬物療法のアルゴリズム」が発表されました（2023年11月に改訂第2版発表）。

これは日本人の病態に応じた治療アルゴリズムが提示されており、薬剤選択に悩んだ際の助となるものです。



詳細はこちら。
日本糖尿病学会の
HPIにリンクします。
(2024.1.12確認)

糖尿病の病態はインスリン分泌不全主体・抵抗性主体の2つに大きく分けられます。これらの評価には、インスリン分泌指数のほか、C-peptide index や HOMA-IR 等の指標が用いられますが、多様な疾患の診療で日々多忙な先生方がこれらの評価を糖尿病患者全例で行うのは現実的ではないため、前述のアルゴリズムでは、この2つの病態がある程度判別できる指標と

して肥満の有無が採用されています。



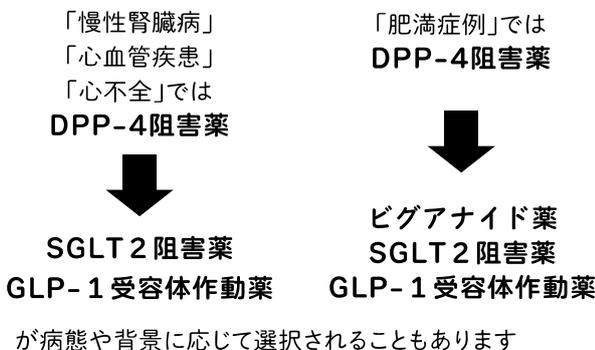
2型糖尿病患者の治療薬を選ぶとき

糖尿病治療薬の第一選択として日本で最も多く処方されているのは DPP-4 阻害薬ですが、肥満症例ではインスリン抵抗性の関与が大きいと考えられ、ビグアナイド薬、SGLT2 阻害薬等に加え、体重減少効果が期待できる GLP-1 受容体作動薬等が優先される場合もあります。

また近年、大規模臨床試験で SGLT2 阻害薬や GLP-1 受容体作動薬の慢性腎臓病、心血管疾患、心不全に対する有用性が示されていることから、これらの疾患を有する場合、SGLT2 阻害薬や GLP-1 受容体作動薬が第一選択となることもあります。

このように、2型糖尿病においては、個々の病態や患者背景に応じた治療薬の選択が必要となります。

2型糖尿病における治療薬の選択について



医療現場全体でのサポートが必須

日本では、糖尿病患者さまは予備軍含め約2000万人に及ぶといわれています。専門医のみで糖尿病診療を行うことは現実

的に不可能であり、専門・非専門に関わらず医療現場全体で糖尿病患者さまをサポートするところが必須と考えられます。診療所の先生方におかれましては、糖尿病患者さまの血糖コントロール悪化時や合併症精査はもちろん、その他お困りのことがございましたらいつでもご紹介いただけますと幸いです。

また、糖尿病だけでなく、バセドウ病、慢性甲状腺炎（橋本病）などの甲状腺疾患や、二次性高血圧の原因として頻度の高い原発性アルドステロン症、その他の内分泌疾患につきましても、ぜひご紹介をお願いしたく存じます。

糖尿病専門医として、診療所の先生方と緊密に連携しつつ、地域の糖尿病内分泌医療に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年1月1日、医療法人東和会は「社会医療法人」に認定されました

理事長のあいさつでも紹介いたしました
 ましたが、2024年1月1日、医療法人東和会は「社会医療法人」に認定されました。今回はこの「社会医療法人」について、説明いたします。

「社会医療法人」が生まれた背景

これまで「公益性の高い医療」は自治体病院等が中心に行なっていました。

しかし近年、自治体病院等は、医師の偏在、長年の高コスト体質などの影響で赤字体質となり、医療基盤の崩壊が懸念されます。今後も自治体病院等に依存し、これらの医療を維持することは困難になってきました。

そこで、自治体病院等に代わって、医療法人が民間の高い活力を生かし、地域医療の主役となることが求められています。

このような背景をもとに、平成18年の医療法改正において「社会医療法人」という新しい法人類型が制

度化されました。

「社会医療法人」の位置づけ

社会医療法人は、以下のように位置づけられます。

- 医療提供体制に関して都道府県や市町村、公的病院の機能を代替するもの



- 公的医療機関と並ぶ5事業
- 救急医療

- 災害時における医療
- へき地の医療
- 周産期医療
- 小児医療



〈小児救急医療を含む〉

…を担う主体

厚生労働省が定める公的な運営要件を満たすことで、都道府県知事により認定されます。

東和会は、上記5事業の中でも、「救急医療」の分野で認定を受けました。

今後は、より公益性の高い法人として、これまで以上に地域医療に貢献してまいります。なおいつそのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

* * *

新入職医師のご紹介



【脳神経外科】

朴 陽太 医師 (脳神経外科部長)



頭部外傷や脳神経外科全般の診療を行います。何かございましたら、どんどんご相談、ご紹介ください。

【脳神経外科】

香山 諒 医師



脳外科医として精いっぱい地域に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

【泌尿器科】

大野 貴也 医師



市立ひらかた病院より赴任して参りました。精いっぱい頑張りますので、ご紹介よろしくお願致します。

2024年1月より
 第一東和会病院の医師が
 大阪医科薬科大学の
 臨床教育教授に就任いたしました
 副院長 消化器内科部長 時岡 聡
 婦人科部長 加藤 稚佳子